

きょうの紙面

勝浦市補正/診療所解体・クリーンC補修等 2

市川市標識修繕等計画 最短で21年度から対応 2

我孫子市内工事一覧/太陽ハウスでサ高住998㎡ 3

エンゼルあいりす保育園南流山内装工事 6

利根川右岸森戸下流築堤工萩原土建で3.6億円 4

木更津工業高専国際寮新営大松建設で4.7億円 4

7事業の継続妥当

千葉県整備部

三郷流山橋の事業費増額

千葉県整備部は10日、2020年度「第1回県県土整備公共事業評価審議会」を開き、主要地方道成田小見川鹿島港線三郷流山橋有料道路事業及び地方道道路改築事業、主要地方道越谷流山線バイパス(仮称)三郷流山橋主要地方道鎌ヶ谷本笠線バイパス野田都市計画道路今上木野崎線印旛沼流域下水道事業(印旛沼処理区)手賀沼流域下水道事業(手賀沼処理区)江戸川左岸流域下水道事業(江戸川処理区)の7件について再評価を行い、いずれも事業の継続を妥当とした。



道路事業など7件を審議

道路事業など再評価

公共事業評価審を開催

680m、渡河部400m、千葉区間830m。事業費の内訳は有料道路事業84億円、一般道路事業128億円。事業の進捗は全体で64%、千葉区間で51%。また、鎌ヶ谷本笠線バイパスも軟弱地盤対策などから事業費を約12億円増額し、59億円から71億円にす

北九州市小倉南区徳力1-2-17。建設地は、ロソン勝田台北店に隣接したさくら敷地面積は1601.97㎡。新築規模は、建築面積655.39㎡、延べ床面積1829.06㎡、高さ9.864m。事業計画に関する問い合わせは八千代リハビリテーション病院(八千代市米本1-808、電話0477-4881155)まで。

は24年度まで、総事業費は54億円。事業の進捗率は79%。残事業費は11億円。今上木野崎線は、東武野田線との立体交差を含む野田山崎交差点から南浦工業団地入口交差点までの約0.7kmのバイパスを整備。事業期間は25年度まで、総事業費は82億円。事業の進捗率は27.1%。残事業費は59億8000万円。一方、3流域下水道事業は、各処理区的生活環境改善や公共用水域の水質改善などを目的に、幹線管渠や処理場等の整備を実施。事業の進捗は、印旛沼流域下水道事業が全体計画2万7391haに対し1万7

977haを整備済みで、整備率は66%。事業期間は48年度まで。総事業費は3870億円。処理人口は140万6200人。手賀沼流域下水道事業は全体計画1万2012haに対し整備見込みが7665haで、整備率は63%。事業期間は43年度まで。総事業費は2310億円。処理人口は65万7700人。江戸川左岸流域下水道事業は、全体計画2万417haに対し整備済みが1万1318haで、整備率は55%。事業期間は44年度まで。総事業費は3820億円。処理人口は142万1100人。

野田市 東金野井浄水場ポンプ順調なら21年度に

野田市は、東金野井850-4にある東金野井浄水場のNo.4配水ポンプおよびインバーター設置工事を計画している。実施設計については23日指名競争入札を開札して業務委託し、2021年3月15日までに完了させる。順調に推

移すれば、2021年7月8月ごろの契約に向けて一般競争入札で工事発注し、年度内の完成を目指す。今後、求められる配水量に対応するため、RC造平屋(一部地下1階)の新電気室内の配水ポンプ室にNo.4配水ポンプなどを設置する計画。

配水ポンプ室には、No.1の配水ポンプ設備などが設置されている。旧No.4およびNo.5については旧式かつセルビウス装置だったことから、インバーター装置への転換に伴い撤去し、新たなNo.4ポンプの能力については、既存のNo.1と同等の、出力75kW、揚水量6.5m³/分、揚程45m、吐出口200mmを予定している。

同事業は、慢性的に混雑している流山橋周辺地域の交通混雑緩和及びつくばエクスプレス沿線開発に伴う新たな交通ネットワークの強化を目的に、江戸川を渡る新橋(仮称)三郷流山橋を含むバイパスを整備する。事業は埼玉県と共同で実施。2018年度から有料道路事業を導入し、22年度の工事完成を目指している。

事業の起点は埼玉三郷市市前地区で、終点が流山市三輪野山地区。事業延長は1960m(埼玉県区間

ととも、いずれかは過去10年以内に日量2万㎡以上の水道施設における電気計装設備実施設計業務の実績を有すること。委託期間は21年3月5日まで。

県葛南管内合同水防訓練

被害最小限へ背水の陣

江戸川下水道が初参加

千葉県土木事務所管内における「2020年度合同水防訓練」が10日、船橋市浜町2丁目の葛南土木事務所浜野野積場で行われ、官民総勢86人のうち、(二社)千葉県建設業協会千葉支部(尾頭博行支部長)から36人(31社)が参加した。新型コロナウイルス感染症防止対策として、参加者を従前の約半分に抑えた。

京葉支部から36人。発注機関は、県葛南土木事務所、県葛南港湾事務所、市川市、船橋市、浦安市に加え、今回から新たに県江戸川下水道事務所が参加。岩岡良所長をはじめ、職員9人がともに汗を流した。訓練内容は「土のうづくり」と「積み土のう工法」による水防工法技術の習得。台風シーズンの出水期にあたり、大雨等により河川の氾濫による被害を最小限に防ぐため、「県出先機関」「市」「協会京葉支部」との合同で水防工法の技術を習得し、実際の災害に対応できる水防体制の強化が目

的。(3面に訓練に参加した京葉支部会員)

緊急時への意識と迅速適切な行動を訓練に先立ち、主催者として県葛南土木事務所所長荒木一所長は、本県では昨年、台風15号及び19号と台風21号に伴う大雨等の風水害により、甚大な被害に見舞われたことと言及。今年も九州地方における7月豪雨、今月の台風9号及び10号による被害の発生について、「いつ起きてもおかしくない自然災害に対し、被害を最小限に留めることが、私たちの大きな役割だ」と強調。

この日の水防訓練に向けては「基本工法である土のうづくりと、積み土のう工法を行う」とし「緊急時に対して意識を高めるとともに、迅速かつ適切に行動できるよう身につけて頂きたい」と鼓舞した。



有事に与えられた地域建設業の役割

一方、業界を代表して京葉支部の尾頭支部長は、「年々台風が巨大化している」と述べたうえで、「この京葉地区においても、いつ甚大な災害が起こるかわからない」と警鐘。有事の際に与えられた地域建設業の役割として「専門的な技術とその知識をフルに発揮し、地域住民の安全・安心を守るため、いち早く対応できるように、常に準備しておくことが肝要である」と強調した。

「建設業協会京葉支部会員においては、さすがに日頃の鍛錬と経験の差が出たと述べる一方、発注機関の職員に対しては「それを見習って学習すること」と、今後の糧にして頂きたい」と鼓舞し、講評とした。

鍛錬と経験の差 今後の糧に学習

